

月報 2021年 4月30日 No.363

石城山岳会

4月号

四方通信



石城山岳会事務局編集

ハッポコの『北岳山行報告』

3月月例山行「西大巔・西吾妻」

角田山（新潟県）

南高帽山・高帽山

花貫溪谷 横根山のイワウチワ

虎取山

山行報告 女神山、一貫森、天井山

丸山岳 1820m

那須連峰（朝日岳・南月山・白笹山）

4月登山教室「背戸峨廊」

山行報告 長寿山 565.5m、太郎坊山 551m

焼倉 (740m) ・ 縦山 (648m)

ロープワーク練習「青葉 北エリア」

山行報告 銀次郎山 1,052m、銀太郎山 1,112m

土岳(599m) ・ 和尚山(804m)

黒森山 (917.4m)

一盃山 ・ ニツ石山

ヘッポコの『北岳山行報告』

2021.03.25 菅野靖

司日程 3月24日(水)～3月28日(日) 天候晴れ

3月25日(木) 夜叉神峠 6:00⇒鷲ノ住山⇒野呂川吊橋⇒あるき沢橋バス停 9:00⇒池山御池小屋
13:30

3月26日(金) 池山小屋 7:00⇒ポーコン沢ノ頭 12:00⇒八本歯の科尔⇒北岳⇒八本歯の科尔⇒ポ
ーコン沢ノ頭 17:00

3月27日(土) ポーコン沢ノ頭 7:30⇒池山御池小屋⇒あるき沢橋バス停⇒野呂川吊橋⇒鷲ノ住山
⇒夜叉人峠 17:00

天候を睨みながら3年越しの北岳に登る事が出来ました。自分の実力では、春でも3泊4日の日程が
必要と考えていた為です。

3月24日(水) 晴れ

いわきから移動し夜叉人峠で車中泊、車は1台。淋しい～。

3月25日(木) 晴れ

ヘッドライトを装着し夜叉人峠を出発。長いトンネル内の水が凍って無い為、快適に歩行。両陛下御
登山の碑があり、北岳間ノ岳が見渡せました。明日は、あそこかぁ～と思うと高揚感がたかまった。
鷲ノ住山からの下りは、赤テープが見にくかったですが、野呂川吊橋に無事たどりつきました。ある
き沢橋バス停からまた登り返しです。1500m辺りからトレース跡が氷となりアイゼン装着。1950
m辺りから雪の踏み抜きが多くなり、わかんに交換。池山小屋到着。池山小屋は避難小屋ですが、布
団毛布も4、5組有りました。一人なので布団モーフを重ね敷き就寝

3月26日(金) 晴れ

池山小屋をたちポーコン沢の頭へ。暑さの為、踏み抜きが多くなった城峰を越えた所でわかんに交換。
ポーコン沢の頭には、ケルンが有り『白根三山の絶景ポイント』でした。この景色を見るだけでも登
ってくる価値が有ると思います。ポーコンザ沢にテン泊道具をデポし、いざ北岳にアタック
八本歯の頭で、わかんからアイゼンに装着替えし核心部の痩せ尾根のルートへ突入です。夏道は分か
るが雪が付着して良く分からないなか、足場確保、確認の為ピッケルで体を支えながらの降下でした。
ロープを使う事無く降下出来たのは、ラッキーでした。あん部のナイフエッジを渡り八本歯ノ科尔へ。
夏道には積雪が有り踏み抜き状態でした。時間短縮の為岩場を登り北岳登頂！一人の為、三脚をセッ
トして記念撮影。久しぶりの3000mで息が苦しい。夏道の雪を踏みしめながら八本歯のあん部に到
着。ピッケルで確保しながら登り八本歯の頭に到着。八本歯の往復で神経を使い疲労困憊でした。ポ
ーコン沢で風が吹く中、テントペグが粉雪で固定せず、苦労しました。強風に煽られながら就寝。

3月27日(土) 晴れ

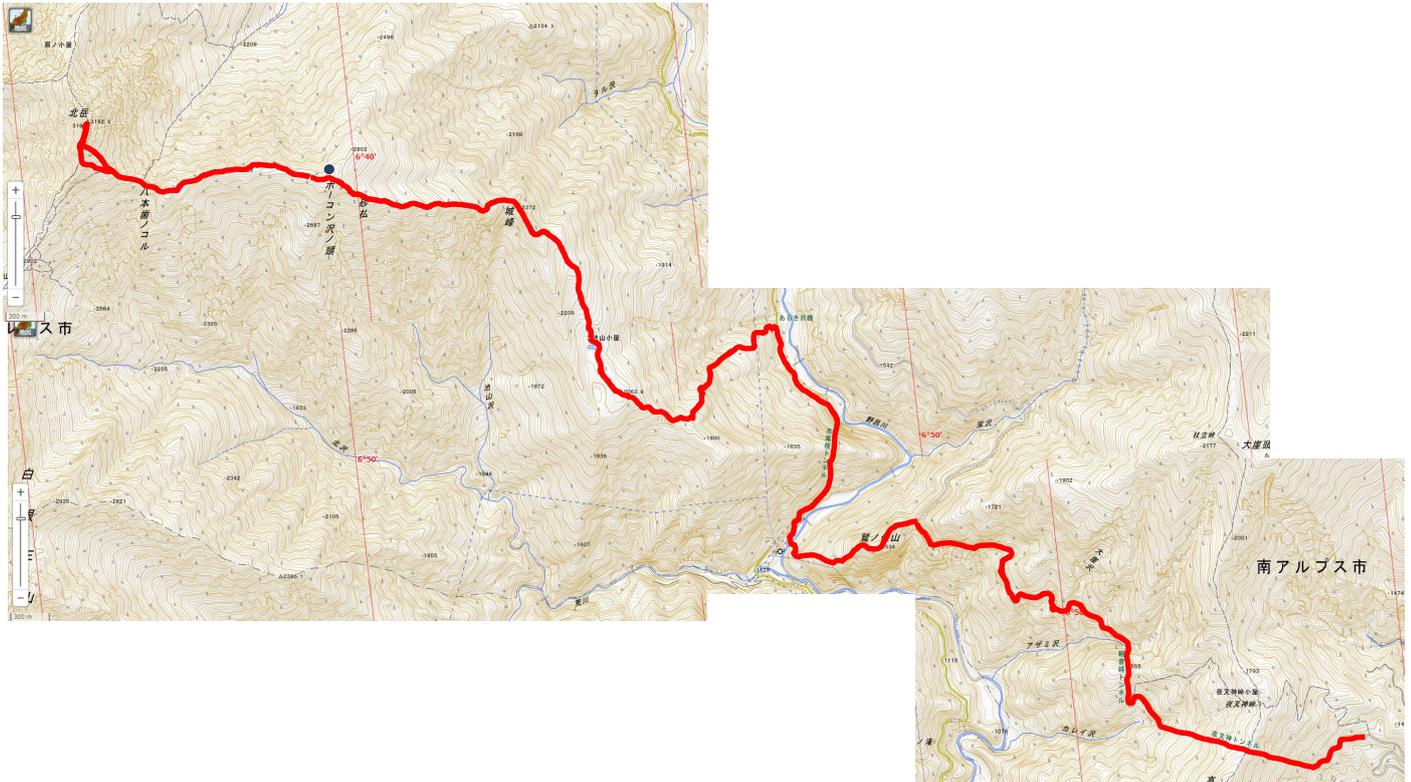
ポーコンの頭で御来光と白根三山のモルゲンを観てテント撤収をしました。ガスの為、早朝の星空を
撮影する事が出来ませんでした。美しい雪の稜線を見る事ができ大満足でした。
ポーコン沢でテントをたたみ下山開始。この日も気温が高く、わかんを装着して下山。登る時は無か
ったトレース後を辿り池山小屋に到着。1500m辺りからアイゼンに変え下山。登山道の氷にアイゼ
ンを蹴り込む度に足首が曲がる為、足首が大変疲れました。柔軟性を欠いた中年の足にはキツかった。
あるき沢橋バス停で昼食を取り鷲ノ住山の登り返しです。疲れた体に30Kgのザックは、キツかった。
結局2時間かかりました。ひとり夜叉神峠をめざし林道を歩き、やっと日没前に到着。

今回の北岳は、今までの山行経験の中で特に緊張した場面が多かったです。今回の登頂は、ピークを踏んだものの、満足感より雪の厳しいルートから早く逃げたい気持ちになりました。年齢的に次は無いかぁ〜と思うと寂しさが過ぎりました。

3月28日（日）

甲府市近郊の満開の桜を見物し、甲府名物ほうとうを食べて、いわきへの帰路に着きました。

（文責 菅野靖司）



3 月月例山行「西大巔・西吾妻」

2021 年3月27日（土）

渋谷・伊藤・西・小林・上遠野・斎藤・太

裏磐梯のグランデコリゾートからゴンドラとリフトを使いながら西大巔を経て、西吾妻に登った。

午前6時に水石トンネルに集合。車2台で三和インターから猪苗代インターまで磐越道を走り、8時前にはグランデコリゾート駐車場に到着。準備を整え、現地集合の斎藤会員と合流。8時30分のゴンドラ運行開始を待って、登山者パック（3000円でゴンドラ往復とリフト1回）のチケットを自動券売機で購入。ゴンドラとクワッドリフトを乗り継ぎ、終点からスノーシュー、ワカンで歩き始める。

西大巔手前のピークまでは、おおむね夏道の西側を、ピークから西大巔まではほぼ夏道を登る。西大巔では、少しだけ残る樹氷に囲まれ、お茶とケーキの休憩。目の前の磐梯山や小野川湖の眺めを楽しむ。

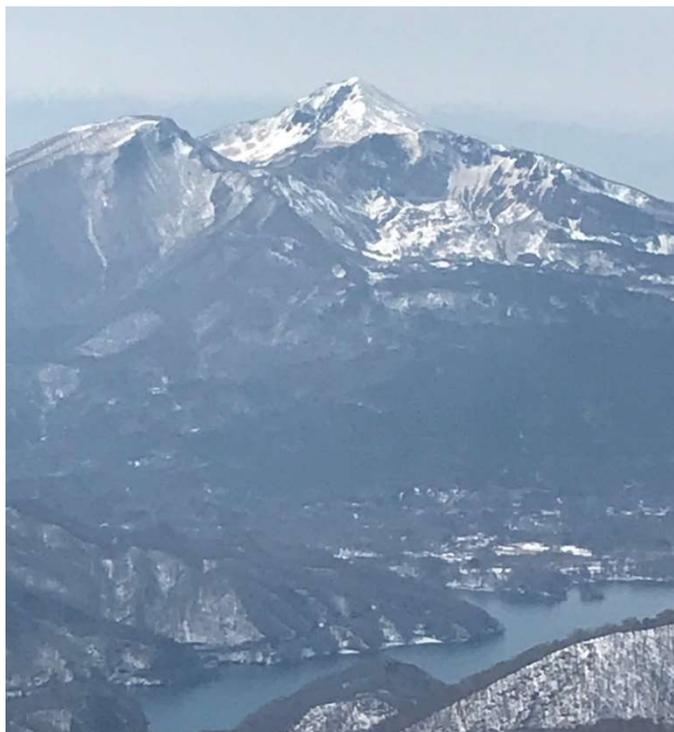
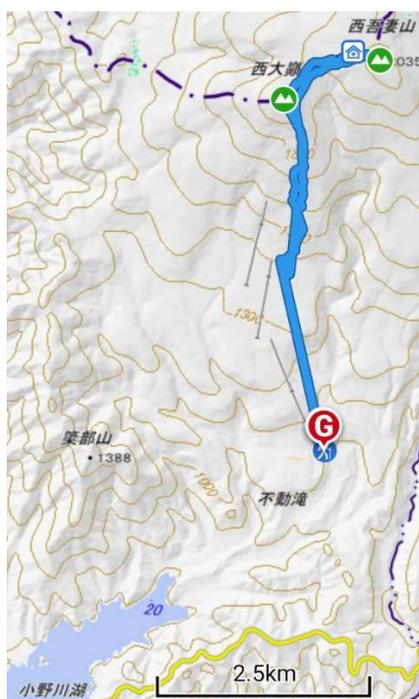
西大巔から西吾妻小屋までは、ほぼ山形・福島の両県境に沿って登り、小屋前で焼きウインナー、豚汁煮込みうどんなど暖かい昼食を取る。飯豊連峰、朝日連峰が白い尾根を見せる。昼食後は、小屋に残った2人にザックを託し、西吾妻の山頂を往復。山頂は雪に埋もれていたが、磐梯山越しに奥に広がる猪苗代湖なども眺められた。

西吾妻小屋からは、急斜面に苦労しながら西大巔を巻き、最初に歩き始めたクワッドリフトの終点まで下った。そこからゴンドラ山頂駅までは、15時30分の運行時間終了に間に合わせるため、ゲレンデ脇を急ぎ下った。時間ぎりぎりでも間に合い、麓までゴンドラで下りることができた。

文責：太

コースタイム

9：30 クワッドリフト山頂駅→11：05 西大巔 11：40→12：25 西吾妻小屋 13：20
→13：35 西吾妻山 13：40→15：10 クワッドリフト山頂駅→15：25 ゴンドラ山頂駅





角田山（新潟県）

2021年3月31日（日）

下山田安廣、佐藤（幸）、蛭田（みち）伊藤（貴美子）、野寺、

久しぶりの平日の休み、大先輩と山友（3人）と角田山に行けることになりました。水石山駐車場、6時出発。ネットで、角田山を調べると、沢山の登山客が訪れていることがわかり、春の花が沢山見れそうで、いつもの登山とは少し違った楽しみな1日になりそうだと思います。車での移動時間が長く、少し不安でしたが、無事に登山する山の駐車場に着きました。急に決まった登山計画だったので、直ぐ近くに海がある事までは、わからず、とても驚きました。民家の脇を通り、久しぶりの山友との会話を楽しみ、写真を撮りながらの登山は、なかなか進みませんでした。ここ最近、多数の先輩との登山が多かったため、ひたすら山を登ったり、下ったりが多く、先輩方に遅れてはいけないと必死についていくことが支流でした。沢山の花々をゆっくり見て、ゆっくり観察して、春の鳥の鳴き声を聞きながら、なんて穏やかな登山日和だろうと感じました。ここ最近の仕事の忙しさや、体の疲れを忘れるような、山と海と青空、沢山の花々の匂いをかいだり、見たり。ストレスを忘れ、自然の中にいる。風や空気を感じ、日光を全身に浴びる。なんて、気持ちがいいのだろう。久しぶりに、あじわう爽快感でした。

山野草が彩る花の山（角田山）。標高481.7メートル、国定公園に指定され、年間をとして、県内外から、多数の登山客が訪れることがよくわかりました。新潟県内の山々に自生する草木のほとんどを観察することができ、毎年3月から4月にオオミソウ（雪割草）やカタクリの花などが山を彩ると聞きましたが本当にそのとおりだと思いました。散策出来るコースもいろいろあるとききましたが私たちは、久しぶりの登山の人もいたので、行きと帰り、同じコースを選びました。カタクリは満開で、お花畑を通り抜けるといった状態、とても綺麗でした。ミスミソウ、カタクリ、イチリンソウ、スミシ、オーレン、ネコノメソウ、エンゴサク、エンレイソウ、など等です。早春の花が咲き誇る回廊を楽しめる名山中、カタクリの奇形で白いカタクリを3本見つけることができ、とても嬉しい思い出になりました。

下山後、新潟県の美しい海を灯台から、見ることもできました。大先輩の協力がなければ、この体験ができませんでした。本当にありがとうございました。これからも、よろしくお願いします。

（文責：佐藤幸子）

コースタイム

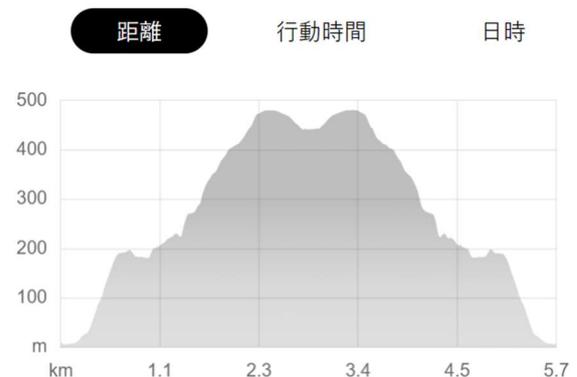
浦浜コース登山口スタート：9：12 角田山山頂到着：11：18 昼食 角田山山頂出発：12：

38 浦浜コース登山口到着：14：13

タイム：5時間01分 距離：5.6km



7





南高帽山・高帽山

2021年4月3日（土） 太

北茨城市の南高帽山（404m）と高帽山（431m）を周回で登った。

華川町上小津田で、県道 10 号（日立いわき線）から、阿吹林道に入る。左側に伐採植林斜面が広がる場所に出ると、そこが高帽山林道入口で、ここまでほぼ舗装道路。

ゲートにチェーンがかかっていたので、広い場所に駐車して、右側の未舗装の高帽山林道を登る。山腹を巻く林道が峠に差しかかると、作業小屋が建っており、高帽山林道支線への分岐がある。南高帽山へと続く支線も同じく山腹を巻くもので 1.2km ほど歩く。終点まで行くと、階段があって、登るとすぐに南高帽山の山頂である。山頂には NHK ほかの地上デジタル放送中継局があり、三等三角点、点名「山小屋」は中継局の奥にある。見晴らしは、フェンス前、北側の展望が良く、いわき市南部の市街地、海岸線、山々が望める。余談だが、何故か山頂にだけ大きなタラの木が生えており、立派なタラの芽があった。

南高帽山からは、林道支線をそのまま戻ってもよいが、地図を参考に尾根を歩くと、道はないものの峠に早く戻れた。峠から林道を下り、関本町富士ヶ丘の関本 A 工業団地からの沢道と合流する辺りで、適当に尾根に取りつき、高帽山を目指す。伐採作業道もあるので、道を選んで上へ上へと登ってもよい。いずれにしても明確な道はないようである。高帽山の山頂は、石杭があるだけで、山名を示すものはなかった。

山頂から高帽山林道へ戻り、送電線鉄塔管理道を通って阿吹林道まで下山、林道を少し歩いて高帽山林道入口まで戻った。

文責：太

タイム

9：40 高帽山林道入口→10：15 林道支線分岐→10：40 南高帽山 11：05→11：10 林道支線分岐→11：50 高帽山 11：50→12：20 鉄塔 45 号入口→12：20 鉄塔 45 号→12：30 鉄塔 46 号分岐→12：35 鉄塔 46 号入口→12：45 高帽山林道入口



花貫溪谷 横根山のイワウチワ

2021年4月4日

下山田、上遠野、蛭田、佐藤、小林



イワウチワの群生を見に、横根山へ行ってきました。
昨年4月4日に行った時は、花貫さくら公園の桜が満開、イワウチワはこれからという感じでしたが、今年は花の時期が早まり、いずれも終盤でした。ということで日曜日にもかかわらず、さくら公園の駐車場も思いのほかガラガラ状態でした。

前回よく調べずに群生地と違うコースで登ったので、今回は慎重に群生地のコースから（入口は10mくらいしか離れていません）。しばらく溪流沿いの道を歩きますが、ハナネコノメソウやヨゴレネコノメソウ、コチャ



メルソウもあったのにと菊地さんから教えてもらいましたが、後ろの2つは初めて聞く名前の花です。もちろん目もくれずにイワウチワに向かいました。

少し時期は遅いとは言え、登山道の両脇にイワウチワが群生し堪能できました。これ以外にも東国ミツナツツジや山の斜面には山桜と春の山を楽しめました。山頂手前の沢尻湿原のミズバショウもほぼ終了でしたが、天ぷらでしか見たことのないコシアブラの木を教えてもらいました。山頂を踏んだあとはもう一つのルートでさくら公園に下山し、残ったさく

らの下でランチとしました（デザート他いろいろご馳走様でした）。乙女滝、汐見滝吊り橋に立寄り、もう一つ土岳もというところで雨がポツポツ降り出したため、1/4位登ったところで終了として下山しました。帰りに立ち寄ったふるさと自然公園センターでは丁寧に説明を頂



きましたが小鳥の写真と紅葉の汐見滝吊り橋が印象的でした。紅葉の時期にも訪れたい山です。



花貫さくら公園 8:10～イワウチワ群生地～9:45 沢尻湿原～10:15 横根山～11:15 さくら公園
(文責 小林憲兒)

虎取山

2021年4月6日(火)



山行報告 女神山、一貫森、天井山

2021年4月8日(木)

秋葉信夫、下山田安廣、蛭田一二三、菊地由紀子

先月、霊山町徳ヶ森 293.57m から南の方に三つのボコボコが見え、あのボコボコに登ってみたい
と思い帰って調べてみると「天井山、一貫森、女神山」であった。由紀子さんの休みに合わせて行ってみました。下山田「桜、桜、山中では花。安達太良、吾妻の展望の中でのおやつと昼食、満足！」



女神山 599m 一等三角点

川俣町に絹織物を伝えた小手姫が祀られている山である。柵門登山口から登り始め、堀切登山口へ下山、約1時間半。



一貫森 520.7m 四等三角点

峠から出ている作業道を辿り30分ほどで頂上に。頂上にはアンテナが立っていた。

天井山 532m 三等三角点 3月7日

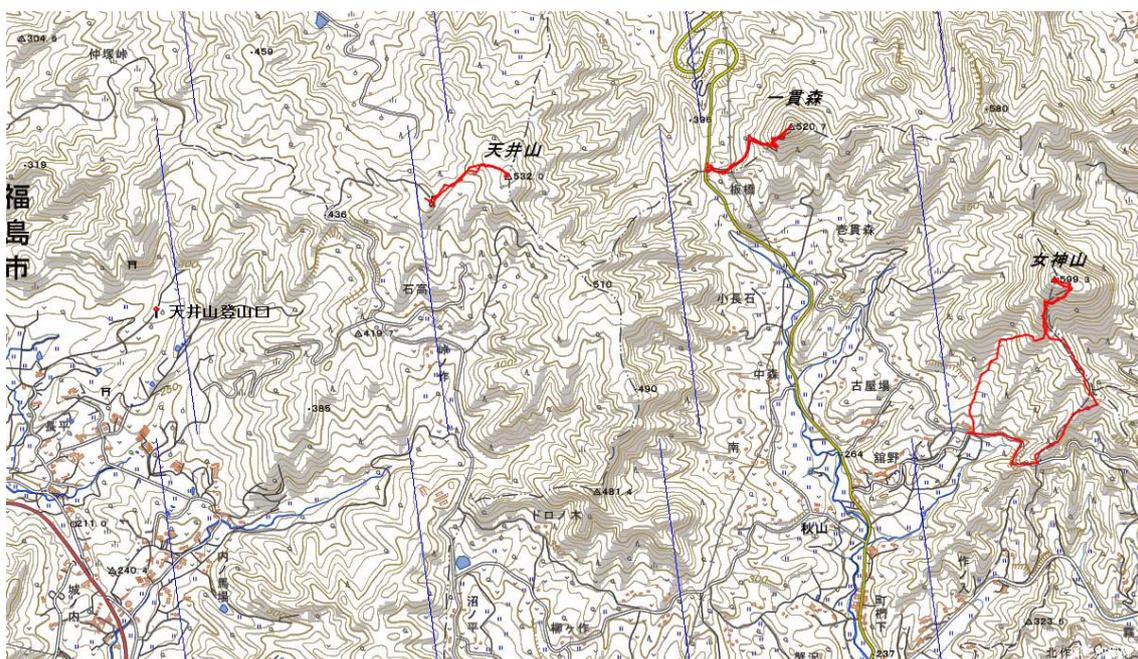
503mのピークに電波塔があり車道が通じているので歩くのは10分程で頂上につい



てしまう。下の登山口から歩いたほうが楽しめる。

頂上は広く仮払われており吾妻安達太良の展望がすこぶる良かった。

(文責：秋葉信夫)



丸山岳 1820m

4月10日～4月12日 菅野靖司、渡辺敏夫

4月10日（土）



4月9日午後いわきを発ち、登山口の小豆温泉の駐車場に6時過ぎに到着。寒気が流れ込んで田島から雪が降り出し、桧枝岐ではさらに激しく一面真っ白になっている。天気予報では明日は晴天の予定だ。車中泊して明朝出発できるように準備をした。朝、曇りながらも雪は止み登山日和になりそうだ。保太橋登山口まで歩き登り始める。家向山の手前では後ろから来た親子と思える登山者に追い越される。登る速度がかなり速く感心する。窓明山山頂では奥会津核



心の山々が一望に見渡せる。先行した登山者が坪入山方面へ向かっているのので、そのトレースをたどって坪入山へ向かう。若干ガスが出ているが、天気は申し分ない。前日の降雪で場所によっては数十センチ程度の積雪があるが、先行者のトレースがありワカンを履く

こともなくアイゼンだけで容易に歩ける。坪入山から痩せ尾根を経て登り返したところでテントを張ることにする。



コースタイム 小豆温泉駐車場 5:33→巽沢山 7:27→家向山 8:50→窓明山 11:09→坪入山 13:26→テン場 14:08

4月11日（日）

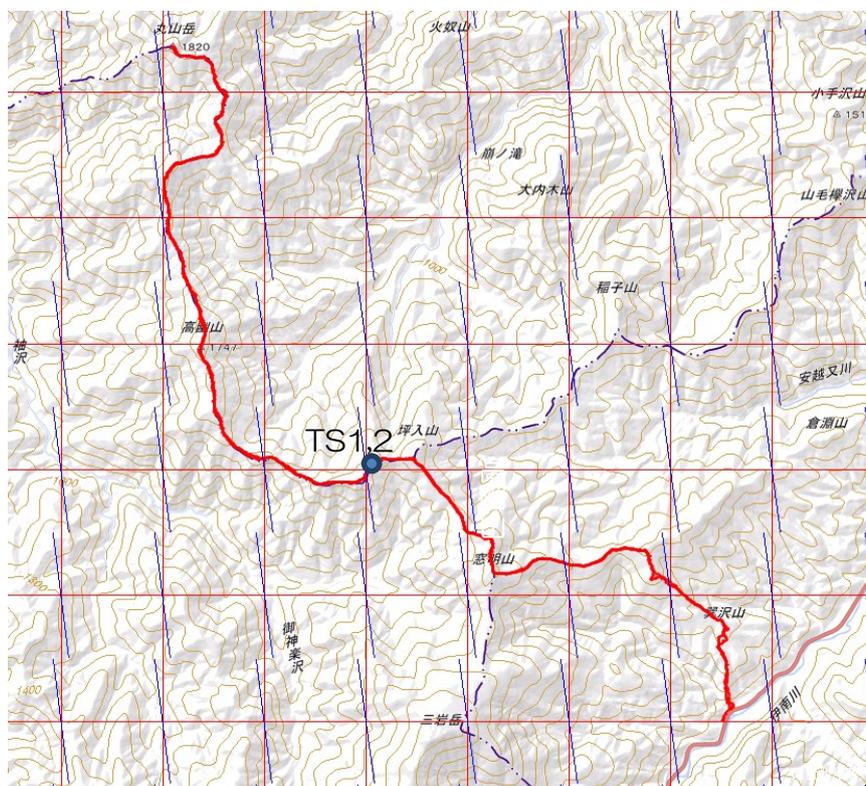
天気が晴れて寒気が流れ込んでいるせいで、夜間気温が -6°C 程度に下がり眠っていて少し寒い。4時過ぎに起床し、準備をして丸山岳への往復を目指す。丸山岳へは距離があるので日没までに帰れるか心配になるが、とにかく頑張っ

予想外で少し驚く。単独行の登山者は保太橋登山口から丸山岳への日帰り登山だという。10時過ぎにすでに丸山岳に登り下山してくる。我々は二泊三日で二十数時間要するのに、1日で終わるという。なんという速さなのかと驚く。ようやく午前中に丸山岳に到着。奥会津の中心の山で、その山容と山頂からの眺めで奥会津の盟主と呼べそうだ。しかし、周囲の集落からは見えない。テン場には日没前に到着できた。楽しい一日だった。

コースタイム テン場 5:20→高幽山 7:43→梵天岳 9:09→丸山岳 10:55 11:08→梵天岳
12:58→高幽山 14:11→テン場 16:37

4月12日(月)

前日に比べて夜間の冷え込みはさほどでもなく、それほど寒くは感じなくよく眠ることができた。4時に起床し準備をしてテントをたたみ出発する。坪入山への痩せ尾根は、早朝雪が固いので慎重に進む。バランスを崩すと斜面を滑り落ちる。窓明山に着いて三岩岳への稜線を見るとトレースがないので、三岩岳へ進んでから下山するのを変更して、窓明山から下山することにした。二日前は積雪の上を滑りながら登った斜面は、雪が解けて地面が露出して、登りの時ほど滑る心配はない。しかし、下山時はトレースが見えなくなると途端に正しいルートを外れる。2~3回ルートを修正しながら下



山した。今日も、昨日ほどの晴天ではないが気持ちの良い春山の登山でした。

コースタイム テン場 5:45
→坪入山 6:18→窓明山
8:05→家向山 9:33→巽沢山
10:30→保太橋登山口
11:16

文責 渡辺敏夫

那須連峰（朝日岳・南月山・白笹山）

2021年4月10日（土）・11日（日） 太

三斗小屋温泉、煙草屋旅館の小屋開きに、絶景露天風呂に入りたくて、1泊で那須連峰に行った。（温泉目当てなので、定番の茶臼岳と三本槍岳にはあえて登らなかった。）

8：30 峠の茶屋駐車場に到着。駐車場の公衆トイレは冬季閉鎖中。残雪の道を登って行くと、峰の茶屋跡避難小屋が見える辺りで雪はなくなる。峰の茶屋跡と恵比寿大黒の間の雪渓はだいぶ小さくなっていたが、軽アイゼンで慎重に渡る。その先、クサリ場を過ぎて朝日岳、熊見曾根まで、強い風もなく、順調。隠居倉へ下る尾根道には残雪が残り、カチカチ斜面のトラバース、溶けてところどころ空洞になった夏道に苦労する。さらにその先、三斗小屋温泉へは、下るにつれて雪が多くなるイメージだった。

予約した煙草屋旅館は、感染症対策で相部屋なし。部屋は昔風の旅館の和室で、トイレは共同だが洋式の水洗。洗面所の水は飲料可とのこと。温泉は、熱めの露天風呂と温めの内風呂で、午後1時から翌日6時まで楽しませてもらった。露天風呂の眺めは、沈む夕日や朝日に染まる残雪の連峰（流石山～大倉山～三倉山に連なる峰々）が見事である。食事は、夕食がポークソテー2枚に川魚佃煮風と小鉢、朝食がウインナと温泉玉子、味付海苔などで、これも昔風。食事のご飯、お茶はお代わり自由。

翌日は、那須岳避難小屋経由で峰の茶屋跡に戻り、無間地獄、牛ヶ首を通過して日の出平と南月山、白笹山まで行った。残雪は、南月山までほぼなく、白笹山に向かう先がたっぴりで踏み跡もなかった。下山は、また紅葉シーズンに来ようと思いながら、ロープウェイを使って下りた。

文責：太

タイム

【初日】

8：55 峠の茶屋登山口→9：35 峰の茶屋跡避難小屋→10：20 朝日の肩→10：30 朝日岳
→10：55 熊見曾根→11：50 隠居倉→12：35 温泉源泉→12：55 三斗小屋温泉

【翌日】

7：00 三斗小屋温泉→7：55 那須岳避難小屋→8：20 峰の茶屋跡避難小屋→8：35 無間地獄
→8：40 牛ヶ首→9：00 日の出平→9：20 南月山→10：30 白笹山→11：35 南月山
→12：05 日の出平→12：15 牛ヶ首→12：50 ロープウェイ山頂駅



4月登山教室「背戸峨廊」

2021年4月11日(日)

参加者：山岳会会員11名、登山教室生9名

若干名は前日に夏井川溪谷キャンプ場にテント泊をしてから参加しました。しかし夜中の気温が大変低くなり寒さで体調不良になり早朝に山行をリタイアした人が1名出てしまいました。ちなみに自動車の温度計ではマイナス4度になっていたとのことです。寒いわけです！



教室としては久々に天気の良い山行になりました。7：50背戸峨廊登山口駐車場集合でしたが天気が良いので集合時間前にはみなさん集合できていたので7：50出発になりました。

登山口からまもなくして江田川沿いの沢コースになりました。水際を歩いて途中鎖をつたったりして順調にトッカケの滝まで来ました。ここから最初の梯子登りが始まりました。梯子登りがここから沢コースが終わるまでたくさんたくさんありました。しばらくすると今度は渡渉です。川石を選んで渡りますが滑って踏み外したり、適当な石が無くしかたなく靴のまま川に踏み入れたり、長靴でも川底の石に着いた苔で滑ってドボンしたり、ほとんどの教室生は水濡らしの洗礼を受けました。

梯子登り・鎖場・渡渉を何度も繰り返しの沢登りで時間もかかってしまいました。三連の滝手前で昼食をとりました。ここから沢を離れ山道です。登りの後にロープをつたっての急な下りがあり、また沢に出ました。猿峨廊（猿くらいしか来ない所だそうです）です。このあと苦労して下ったところを引き返して、また登りです。早回り分岐点まで来て小休止。ここからは山道です。馬の背を経て登山口駐車場に到着しました。

途中、教室生が転倒してけがをするアクシデントがありました。その際のストッキングを使った応急処置、スリングを使っての2人がかりでのけが人の誘導などを目の当たりにしました。山行には危険がつきものです。危険を避けて細心の注意を払うのは当然ですが、アクシデントがあった場合にいか最善の対処ができるかが大切だと思いました。そのためには日頃の訓練と準備がいかに大切ということが実感できました。

(文責：山中)

山行報告 長寿山 565.5m、太郎坊山 551m

2021年4月16日(金) 秋葉信夫

昨年、福島県登山ガイド協会が「福島百名山グレード表」を発表した。その中で長寿山だけが分

からなかった。調べてみると、先日登った女神山と国土349号を挟んで対峙している山でした。

国道349号線の岩阿久(いわご)にある「長寿泉」の看板を目印に舗装道路をグングン登る。ここは桜並木の名所になっている。峠の手前に長寿泉があ



長寿山頂上



太郎坊山頂上



千貴森

天井山 女神山 奥は吾妻 一貴森

堀沢山

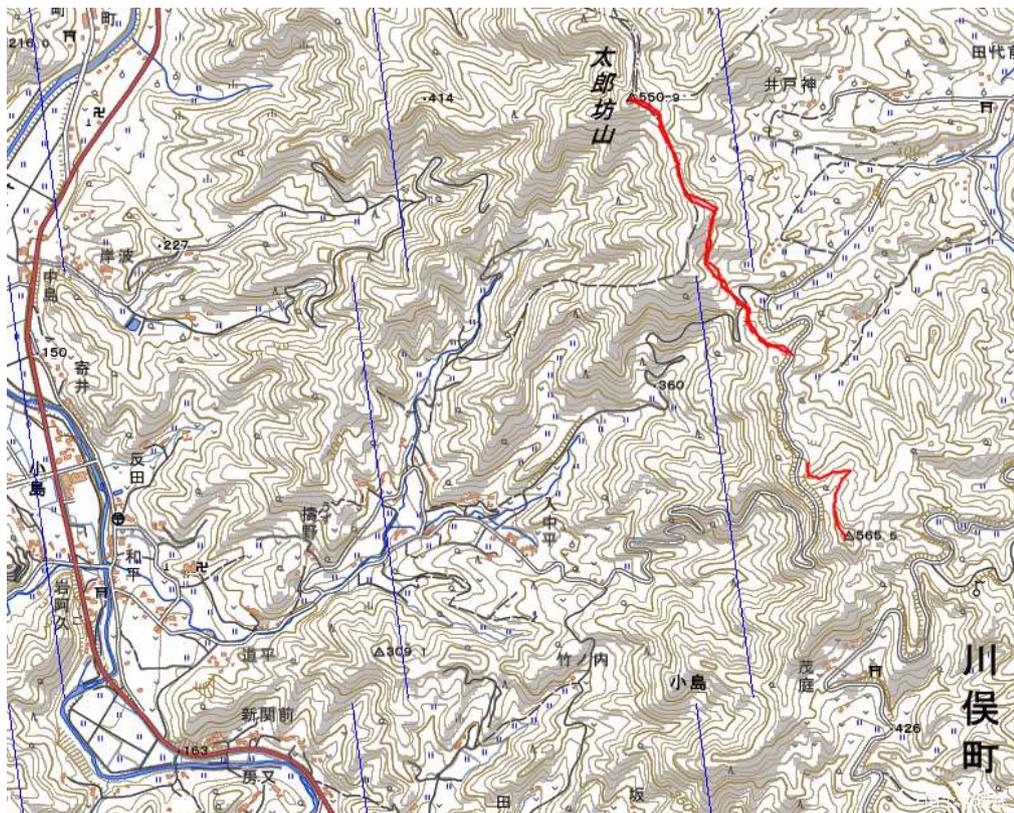
御幸山

り、峠を越えたところが駐車場とトイレが整備されている長寿山登山口。10分ほどで祠と鐘楼のある頂上(四等三角点、点名:茂庭)に着いてしまう。吾妻・安達太良の展望は抜群。千貴森~御幸山

のポコポコという稜線が登行意欲を掻き立てる。

車道を少し下ると太郎坊山の登山口、広い尾根道を約30分で三等三角点、点名:七曲)に着く。

登山としては少々物足りないもので、近くの山と組み合わせると良いだろう。(文責:秋葉信夫)



焼倉（740m）・縦山（648m）

2021年4月21日（水） 太

第9回「いわきの山を歩く会」に参加できなかったので、単独で田人中央山地をピストン尾根歩き。

県道71号勿来浅川線から林道石寄線（舗装）に入り、山岳会が取り付け「焼倉登山口」案内板のある広場に駐車、杉林の中を登り始める。尾根近くから雑木林になり、緩やかな上り坂を進むと、風況調査用の鉄塔が建つ山頂に出た。鉄塔の傍らに、三等三角点「焼倉」の標石、山岳会の「焼倉740m」の山名板があった。山頂は、周囲のほとんどを雑木で囲まれ、あまり眺望が良くない。

山頂から尾根を下っていくと、巨石が点在する若い植林地に出て、視界の先には、石油タンク群を有する小名浜港、背後の市街地、ズラリと並ぶ湯ノ岳連峰などが望める。さらに下ると作業道、林道（舗装）と順に出会い、林道を中央牧場側に上ると左側に山岳会の「縦山登山口」案内板がある。そこから杉林の中を登り、牧柵に沿って進むと頂上に着く。三等三角点「大山」の標石、「大山647.5m（モミ山）」の山名板もあったが、こちらの頂上も雑木で囲まれて、あまり眺望はない。

すでに午後4時近かったので、来た道を折り返し、駐車場所に戻った。

文責：太

タイム

14:15 焼倉登山口（林道石寄線）→14:45 焼倉→14:55 植林地→15:30 林道出合い（焼倉入口）

→15:35 縦山登山口→15:55 縦山→16:15 焼倉入口→17:00 焼倉→17:35 焼倉登山口



ロープワーク練習「青葉 北エリア」

2021年4月21日(水)

参加者：秋葉、小林、芳賀、栗崎（透）、栗崎（容）、佐藤（幸）、吉田、永井、鎌田
佐藤（秀）、西田、山中

「ロープワーク練習」となっていたイベント告知から、屋外でのロープ結びの実習と思い軽い気持ちで参加しましたが実際はクライミング練習でした。当然装備も無くお借りして参加させていただきました。

道路から10分ほど山道を登ると巨石がありました。そこが練習エリアです。最初に背戸岨廊の登山教室ででたケガ人に対処したスリングによる誘導の説明を受けました。通常は前一人で誘導することが多いそうですが背戸岨廊は上り下りがあり時間を短縮するために前後二人で誘導したそうです。腕のケガの対処ではストックの使用方法和添え木がわりにクッションを使用しているテーピングなどを解説していただきました。なるほど！勉強になりました！

次に岩降りです。命綱を付けての降りですが初めてなので怖かったです。踏み外して落ちてもロープで助かる大丈夫言われても... ということでもう少し慣れてからすることにしました。降りるのが怖いのなら登りは大丈夫でしょうと言われ登りです。シューズをお借りしてチャレンジします。まず、命綱をエイトノットでハーネスに結び付けます。降りと違って怖さはありません。ゆっくり登ります。足の置き位置や岩のつかみ場所を考えながら登ります。何とか登り切りました。降りにはロープに体重をかけてゆっくり降ります。ビレイ（安全確保）をする人を信頼して降ります。地面につくと達成感が湧き出てきます。（少し大げさかな?!）おもしろいです！何度か登りを体験しました。楽しい！！

登りで自信をつけたので後回しにしていた岩降りにチャレンジです。ビレイ器具を装着して降ります。ロープに体重をかけて手で持っているロープを緩めて下降するのですが、どうゆうわけか緩めるタイミングが合わず崖にしりもちを着いてしてしまいました。どうにか体勢を整えて無事に降りました。もう一度降りましたが今度はOKです。

初めての岩場でのクライミングでしたがすごく楽しめました！おもしろいです！これからも続けていきたいと思いました。

（文責：山中）



山行報告 銀次郎山 1,052m、銀太郎山 1,112m

2021年4月22日(木)～23日(金) 秋葉信夫

20年以上前になるが、銀次郎山に日帰りで登ったことがある。その時に銀太郎山に向かう人たちを見て、自分もこの奥の山に行ってみたくと思った。その後、栗ヶ岳や浅草岳、守門岳などから見えるピラミダルな山は？調べてみると五剣谷岳、青里岳、矢筈岳等で登山道は無いので4月の残雪期に、体力と3日以上的好天が続かなければ登れない、最も登り難い山塊の一つだと知った。



ドクターストップが解けてから初めての本格的な登山で、体力が心配だが行ける所まで行ってみよう。4月21日16時自宅発。五泉市村松町で食料を購入し20時、悪場峠の登山口で車中泊。

22日 予備日含めて3泊の食料を持ち、スパイク長靴で5時15分出発。

悪場峠から登ると佛峠から下りになり、水無平はカタクリ、キクザキイチゲ等のお花畑。

緩やかな登りで焼峰山の神様。路もはっきりし、ルンルン気分で登れたが、木六山をトラバースする所から雪渓が出て、本来の登山道がどこか分からない。何とか本来の登山道に合流し木六山からの尾根に出る。前方に目的の山を眺めながら歩を進める。

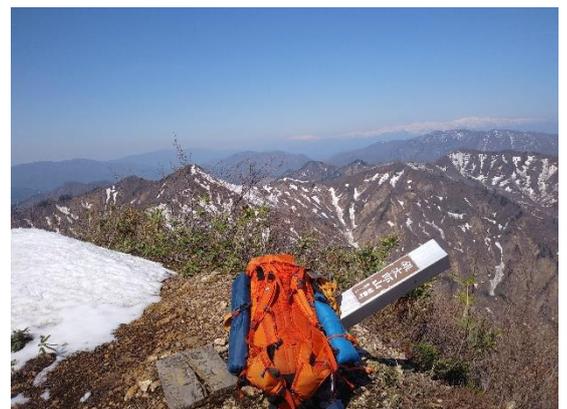


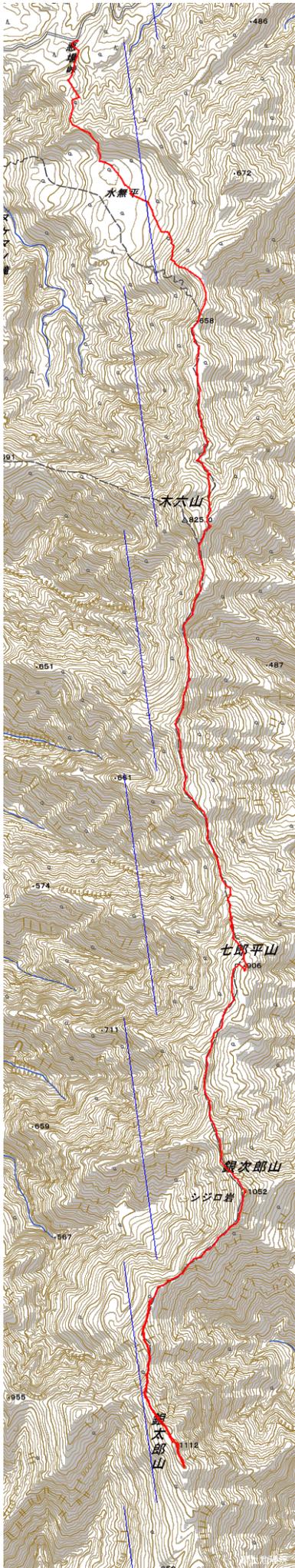
七郎平山の手前も登山道が雪渓で覆われている。どう見てもスリップする傾斜で、尾根を藪漕ぎするが、藪に引っ掛かりテントポールを落としたようだ。藪の中を引き返してポールを回収、えらくエネルギーを消耗してしまった。登山道と合流して七郎平到着。広々したブナの台地、気持ちの良い所で、沢には水が流れており、ここで幕

営すれば気持ちが良いだろう。

時々雪渓を横切りながら尾根を忠実に辿ると銀次郎山、一気に展望が広がる。

先へ進む。ここからは初めてのところ。すぐそこに見えるが中々着かない。銀太郎山からの展望は、栗ヶ岳、浅草岳等360度の展望だ。五剣谷岳まではもう1時間30分くらいだが、この調子では2時間以上かかるだろう。レクタクタで、明日12時間行動は無理。今日以上の急斜面をスパイク長靴、右の肩が痛い状態で藪漕ぎはツライ。





今回はここまでとする。銀次郎との鞍部近くの雪渓が近くの風の当たらないところにテントを張る。

雪渓からスコップで雪を掘り、ゴミ袋に入れて、それを少しずつコッフェルとコンロで溶かし、水を作る。

夕食は、砂糖醤油で豆餅、サバの味噌煮、ソーセージ、チーズ、お茶とコーヒーと礼儀正しい食事でした。



23日 時間はあるのでスミシ、キスミシ、ミヤマカタバミ、タムシバ、ショウジョウバカマ、キクザキイチゲ、カタクリ、等を愛でながらゆっくりと歩く。

1人の登山者と会う。やっぱりスパイク付き長靴だ。来るときに危ないと思いトラバースした雪渓は、やっぱり数回スリップした。

木六山の雪渓は慎重に下り、そこを通らないと登山道に出られない所にシュルンドがある。最後の一步で雪渓が崩れてシュルンドに落ちてしまった。

水が流れていたが幸い岩のゴロゴロの下を流っていたので少しの濡れで済んだ。ザックを外し、首くらいの深さのシュルンドの外に出そうとするが、重くて持ち上がらない。やっとのことで外に出し、自分も攀じ登るが泥だらけである。



登山口に着いてホッとす。荷物をかたずけていると、外付けしていたマットが袋だけ残って本体がない。きっとシュルンドに落ちた時だろう。

五泉市の「さくらんど温泉」で汗を流して泥んこの服を着替える。時間もあるので、ノンビリと一般道を帰る。国道を70 kmにセットして走っていたら西会津と坂下の堺で白バイに捕まった。そこは50 km制限のところまで22 kmオーバーで、2ポイント、1万5千円の罰金でした。

途中、どこかに登って帰ろうという気持ちもスッカリ萎えてしまいました。家に帰り、山行の残りの砂糖醤油豆餅とウーロン茶を一人寂しくすするのでした。😞

コースタイム 行き 悪沢峠 5:10→佛峠 5:40→水無平 6:10→焼峰山の神様 6:45→木六山尾根 8:25→七郎平山 11:10→銀次郎山 12:00→銀太郎山 13:45~14:00→テント場 14:30
帰り テント場 5:45→銀次郎山 8:00→七郎平山 9:00→木六山尾根 10:00→焼峰山の神様 11:30→水無平 12:00→佛峠 12:40→悪沢峠 13:10
(文責：秋葉信夫)

土岳(599m)・和尚山(804m)

2021年4月23日(金)・24日(土)

参加者：下山田

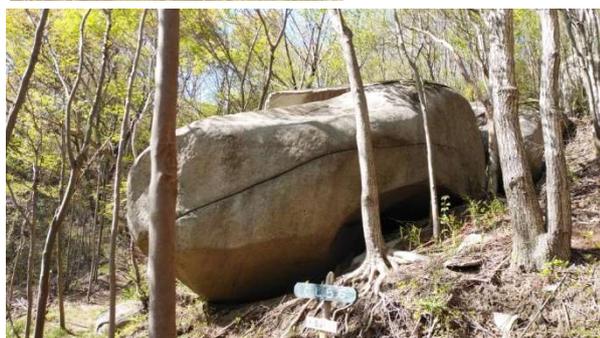
この日、誰からも誘いがなく、前回横根山に連れっていただき、時間があるので近くの土岳登った。が、当日の天気予報は午後から雨。土岳小滝沢登山口から登り、イワウチワの群生のところで写真撮影、その地点の数メートル下でめずらしき杉の木があった。何と幹が一回転している。

頂上まで行きたかったが、すぐ雨が降るし濡れたら体が心配だからここから下ります。とわが身を心配してくれているのを振り切ることはできない。懸命の判断だったのか下山したとたん雨が降ってきた。感謝！感謝！



その心残りもあり、看板には反対側にけやき平キャンプ場があり、そこからあと登り20分で山頂とのこと、「よし、テント持参で一泊し翌日前回のねじり杉まで下り、登り返そう。」と出発。

昼に花貫溪谷の入口にあるそばの「鳥曾根」でセットメニューを注文。なんとざるそば(うどん)には山菜天ぷら5品、自家製こんにゃく、しょうゆだいこん、がついて550円、セットにしたのでキツネ寿司2個、干し大根の炒めが付き150円。合計700円、そしてそばもうまい。お店の人達も対応が素晴らしい。何度でも通いたいと思った店で、ラッキーだった。おすすめですよー。



キャンプ場にはちょっと行ったり来たりした。入口にはくさりかかっていたがカギがかかってないのでくさを架け替え午後2時テント場着。なんと、ここは予約制とのこと。吾輩の顔の良さと対応の良さ?でOKをいただいた。しかし、幕営料が一区画2,000円。ガッチョーン!!ただ区画内には何張張っても良いとのこと。必要なら薪もあるとのことだった。

テントを張り終え午後3時山頂に向け出発、すぐ行ったところにけやきの巨木とくじらに似た岩がありそこを通っても山頂に行けると教えられた。たしかにわき道を通っても30分足らずで頂上についた。風があり少し寒いが晴天、展望台もあり、三角点(三等)もあった。

テン場に戻り、読書と本を開いたが表は寒い、中に入りちびりちびり始めた。

翌朝5時半起床、ゆっくり準備し山頂へ、曲り杉まで下る。岩場があり、結構急だった。そこから



登り返して再び山頂からキャンプ場へと下った。

テントを撤収し、一路和尚山を目指す。登山口まで結構かかったが、意外と早く山頂に着いてしまった。祠と三角点があり、山頂は50畳ほどの草原状態。早々に下山し途中昼食でも思ったが、ナビは途中から大津港への道を指し意外と早く平についてしまい、口コミで有名な平の“青龍”でとる事が出来た。

(文責：下山田 安廣)

コースタイム：4月23日いわき(10:00)一鳥曾根(11:40-12:10)一けやき平(13:30-15:00)一ひのきたろう、くじら石經由山頂(15:30)

4月24日けやき平(6:00-6:19)山頂一曲り杉(7:19-7:30)一山頂(8:18)一けやき平(8:28)

和尚山：登山口(10:45)一山頂(11:15-11:20)一登山口(11:45)



黒森山 (917.4m)

2021年4月25日(日) 菅野・山縣・太

イベント「2021 黒森山登山ウォーク」に参加した。主催者発表の概要は次のとおり。

○受付時間 8:30~9:30 受付後に随時出発。定員 100 人(事前申込制) 参加費 1000 円

○コース往復 13.4km(林道区間 5.3km、登山区間 1.4km)

○参加特典(記念品タオル、地元産アスパラガス、いいでのゆ入浴・食事割引券、ほか景品抽選券)

県道 383 号から、飯豊山に向かう林道一ノ木線(舗装)に入って、すぐのところに黒森山への林道入口があり、イベント受付、移動式仮設トイレが設けられていた。受付後さっそく林道を歩き始める。林道区間が長いので、イベント名が「登山ウォーク」。1 時間以上歩いて登山口に到着。

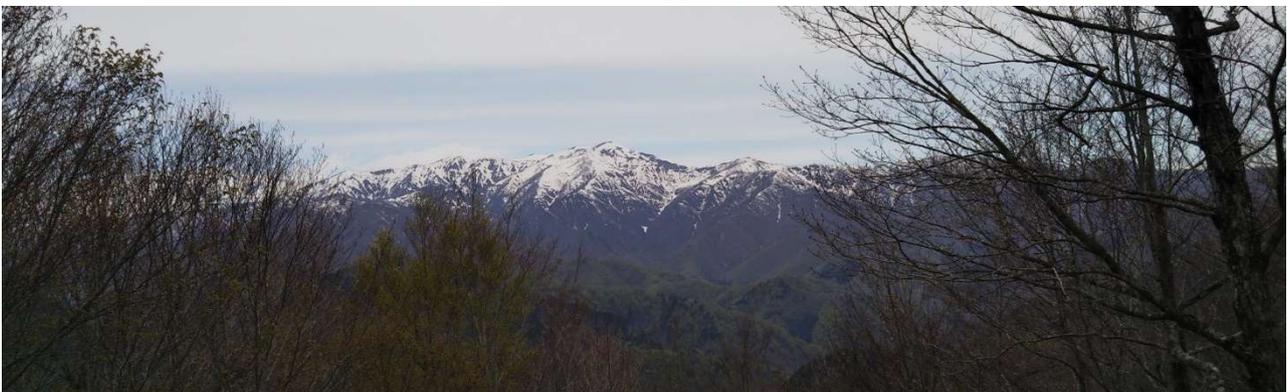
登山口は林道脇の急斜面で、ロープが付けられていた。短い急登で尾根に出て、そのまま最初のピークまで進む。少し下ったところから本格的な登りになり、約 700mの歩行距離で標高差 200mを登る。息を切らして登りきると、山頂は疎らな樹木に囲まれた広場で、白く輝く飯豊山が目の前に望めた。眺望確保のために樹木を一部伐採したのだろうか、良い眺めだ。三角点(二等「黒森山」)脇の山名標柱のところで写真を撮って、眺めを楽しみながらお茶休憩。

下山は来た道をそのまま戻り、イベント受付にて、引換券と交換に参加特典をいただいた。

文責：太

タイム

8:15 イベント受付→(林道区間)→9:45 登山口→(登山区間)→10:25 黒森山山頂 10:55 →(登山区間)→11:25 登山口→(林道区間)→12:40 イベント受付



一盃山・ニツ石山

2021年4月25日(日)

参加者：秋葉、吉田、長谷川 栗崎二人

新うつくしま百名山が発刊されて、一盃山のページのプラスアルファにニツ石山が紹介されていた。というのを秋葉さんが見つけて、早速、初めての山を歩いてきた。

一帯はニツ石山森林公園で、登山口まで車で入る事ができる。

片道30分程度の周回コースが開かれている。

山頂直下に大きな「ニツ石」が寄り添ってある。

そこから間もなく、パノラマ展望台で安達太良山が目の前に聳え、その背後に磐梯山の頭を望む。道々、何種類ものスミレが咲き競っていた。また、スミレの勉強の季節がやってきてしまった。

一盃山は、前は真夏に登ったらしく山頂近くの大志の広場は藪が出ていたが、今回はひろびろとしていて、気持ちの良い休み場だった。

その先の東のピーク、音の岩まで足を伸ばして阿武隈の山々を展望した。

往路は道脇のウコギを摘みながら戻った。

文責：栗崎 透



